

## すみだトリフォニーホールの大規模改修の進捗状況について

### 1 経緯

すみだトリフォニーホール（以下「本ホール」という。）は、開館後約 30 年が経過し、設備等の更新時期を迎えているとともに、特定天井の耐震化やバリアフリー対応が必要であることから、区では、安全性・快適性の向上を図るため、今年度から、大規模改修工事の基本設計に着手している。

今後の取組について、ハード・ソフトの両面から検討を進めており、改修工事の事業手法、工事に伴う休館期間を見据えた対応等に関し、進捗状況を報告する。

### 2 事業手法

事業手法の検討に際しては、妥当性を判断するに当たり、国が定める「技術提案・交渉方式の運用ガイドライン」に準じて、本年 7 月に専門委員会を設置した。

専門委員会において、設計・施工分離方式、デザイン・ビルド方式、E C I 方式の比較検討を行った結果、施設の特異性を踏まえた工事品質の確保、スケジュールの遵守、総事業コストの抑制等の観点から、E C I 方式の適用が妥当であるとの見解が示された。

これを踏まえ、区では、E C I 方式を採用することとし、今後、事業者選定手続等を進めていく予定である。

#### （1）専門委員会

専門委員会は、外部有識者 3 名、区内委員 5 名で構成しており、適切な事業手法の判断、事業者の技術提案内容の評価基準の設定、評価基準に基づく応募事業者の審査、価格等に係る交渉等の業務に関し、外部有識者から意見を聴取することで、中立かつ公正な審査・評価を確保することを目的としている。

#### 【専門委員会における有識者委員】

| 役 職 | 氏 名   | 所属等                         |
|-----|-------|-----------------------------|
| 委員長 | 平田 京子 | 日本女子大学 建築デザイン学部 建築デザイン学科 教授 |
| 委 員 | 天神 良久 | 東洋大学 大学院経済学研究科 公民連携専攻 客員教授  |
| 委 員 | 藏田 幸三 | 一般財団法人 地方自治体公民連携研究財団 代表理事   |

#### （2）検討経過

|     | 開催日       | 内容          | 主な意見                                                                                                                          |
|-----|-----------|-------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第一回 | 7 月 2 8 日 | 事業手法の選定について | <ul style="list-style-type: none"><li>・ 事業手法の選定には明確な根拠が必要</li><li>・ 施設の特異性を踏まえた評価を行うべき</li><li>・ 工事費の妥当性の確認を行うことが必要</li></ul> |

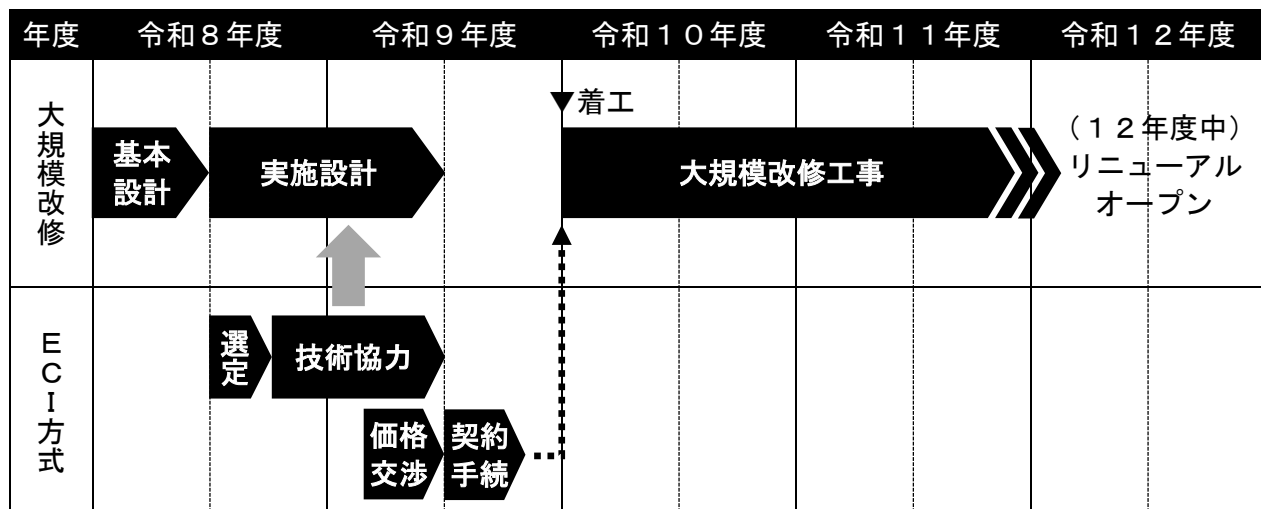
|     |       |                         |                                                                                                                                        |
|-----|-------|-------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 第二回 | 8月10日 | 事業手法の選定について             | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業における評価の優先順位を明確にすべき</li> <li>・区内事業者の参画等に一定の配慮を行うべき</li> <li>・施設の特異性からE C I方式の選定が妥当</li> </ul> |
| 第三回 | 9月4日  | 事業者募集における審査基準・評価項目等について | <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者を求める品質の中に「音響性能の確保」を明記することが必要</li> <li>・事業者現場説明会を開催することが必要</li> </ul>                        |

### (3) E C I方式の特徴

E C I方式による建設工事においては、通常的设计・施工分離方式と異なり、施工予定者として選定された建設会社等が、技術協力者として設計段階から参加し、価格面において合意されれば引き続き施工を担うこととなる。

そのため、発注者（区）では技術協力に伴う費用が必要となるが、施工予定者が技術協力することにより、工事費や施工期間について精度の高い見積・設定を行うことができるため、工事費の上振れによる入札不調や工事遅延を防ぐことが可能となる。

### (4) 大規模改修の全体スケジュールとE C I方式による技術協力フロー



## 3 工事に伴う休館期間を見据えた対応等

本ホールの魅力と認知度向上を図るためのSNS等を活用した情報発信のほか、以下について検討を進めている。

### (1) ファンドレイジングの実施

改修の必要性について共感いただき、幅広い支援をいただくため、クラウドファンディングの手法を通じて一部資金調達を行う。寄付に伴う返礼品についても調整を進めており、10月上旬から受付を開始する予定である。

### (2) 休館中における区民等利用に関する対応

改修工事期間中（令和10・11年度）における、文化振興財団の公演事業（新日本フィルハーモニー交響楽団やジュニアオーケストラの活動を含む。）や、「はたちのつどい」について、曳舟文化センター等の区内公共施設での実施を検討・調整中である。